

- * 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネ3：16）今年「神の愛」をテーマに一年間歩む。「神の愛」とはどういう愛かを深く知り、人に伝えることを目標にする。ルターが「小型聖書」といったように、ヨハネ3：16は、全聖書を凝縮した内容であり、福音の真理の要約である。聖書には何が書かれているかと問われればこの箇所を示せばよい。
- * <神> 聖書の神は「世を愛された」と、「愛の神」と述べている。神は先ず 天地の創造者である。日本には神話から生まれた無数の神々が存在する。また「、の神」のように人間の願望を遂げるために神をつくる。人間にとって都合のよい神々である。しかし聖書の神は私たちを超越する全知全能の神である。人間の知恵も基は神からの賜物であり、昨今のAIのようにその進化は恐るべきだが、神を超えることはできない。また、神はただ一つで、無限であり、人格を持つ方である。私たちを愛し、励まし、慰め、時には厳しく叱る方。私たちは祈りによってその神と交わることができる。
- * <ひとり子> 「ひとり子」とは、他に類のない、ただ一人のという意味。神が人の形をとって地上に來られた。また、聖霊によって生まれたという意味で神の御子である。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」（ヨハネ1：18）とあるように、御子は父なる神と特別な関係にある。神のひとり子イエスは神の性質を父と共有しておられるのである。
- * <与えた>。神である方が人間として天から一番下の地上まで降りて來られた、それほどに世を愛された。家畜小屋に生まれ、貧しい庶民の家で生活し、様々な困難も経験された。私たちと同じ生活の場で共に生きられた。人に対する愛があふれていた。貧しい人、弱い人、病んでいる人、異邦人や罪人と呼ばれる人たちと共に過ごし、愛を示された。「与えられたほどに」の最大の意味は十字架である。死という最大の犠牲を払って私たちを救ってくださり、いのちを与えてくださったのである。
- * <世> 「世」とは神が造られたこの世界。初め造られたものはすべてが良かった。しかし、罪が入り、悪がはびこって世は神を忘れ、神に反抗するところとなってしまった。しかし、そのような闇の世であっても神は愛しておられる。
- * <愛した> 世を生かすために自らが死ぬキリストの愛、神の愛である。「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」（ヨハネ15：13）この愛は決して薄っぺらなものではなく、深い、深い愛である。また、この愛は信じる者すべてに与えられる広い、広い愛である。神の愛の最大の現れであるイエス・キリストを見失わないように歩んでいきたい。